

# 東京バッハ合唱団 月報

[ 第 503 号 ] 2004 年 5 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 Tel : 03-3290-5731 Fax : 03-3290-5732  
E-mail : bachchortokyo@aol.com http : //www2.tky.3Web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO  
Monthly Newsletter No.503  
May 2004

5-17-21-101 Funabashi,  
Setagaya-ku, Tokyo

## アンメ牧師とのお別れ

主の慈しめは決して絶えない。  
主の憐れみは決して尽きない。  
それは朝ごとに新たになる。  
哀歌 3:22,23 ( 日々の聖句 04.2.27 )

この希望を心にいだいて、わたしの夫、  
わたしの兄、わたしたちの父、祖父  
牧師・元教区監督  
グンドルフ・アンメ  
1928.9.9 生 - 2004.2.27 没  
は神のもとに永遠に召されました。

わたしたちは感謝と愛のうちに喪に服  
しております。

バーバラ・アンメ  
マティーアスおよびウータ・アンメ  
カロリーネ、ヨーナタン  
およびヴィンツェント  
エーバハルトおよびルート・アンメ  
親戚一同

葬儀礼拝は、2004.3.6(土)13時にケベ  
ニック市教会にて、埋葬は、引きつづ  
きケベニック福音派墓地 (12557 ベル  
リン, ルードヴァ通り 23)にて執り行  
います。

供花に代えて、北朝鮮緊急援助のための献金をお願い  
申し上げます。

振込先 : Berliner Missionswerk, 口座番号 : 71617,  
Ev. Darlehensgenossenschaft, BLZ 210 602 37

去る 2 月 27 日、アンメ牧師がお亡くなりになりました。

南吉衛牧師経由のファックスで上記の通知をいた  
だきましたので、最後となってしまった本年 1 月 19  
日付けのお便りとあわせて、団員の森永毅彦氏に翻訳  
していただきました。

Die Güte des Herrn ist,  
daß wir nicht gar aus sind,  
seine Barmherzigkeit hat noch kein Ende,  
sondern sie ist alle Morgen neu.  
Kgl. 3, 22, 23 Tageslosung 27. 2. 04

Mit dieser Hoffnung im Herzen wurde mein  
Mann, mein Bruder, unser Vater und Großvater

Pfarrer und Sup. i.R.  
**Gundolf Amme**  
\* 9. 9. 1928 † 27. 2. 2004

in Gottes Ewigkeit abgerufen.

In Dankbarkeit und Liebe trauern

Barbara Amme  
Matthias und Uta Amme  
mit Caroline, Jonathan und Vincent  
Eberhard und Ruth Amme  
und alle Angehörigen

Der Trauergottesdienst findet am Sonnabend, dem 6. März 2004, um 13.00 Uhr in der  
Stadtkirche Köpenick statt; die anschließende Beisetzung erfolgt auf dem Ev. Friedhof  
Köpenick, Rudower Straße 23, 12557 Berlin.  
Statt Blumen bitten wir um Geldspenden für Nothilfe in Nordkorea: Berliner Missionswerk,  
Konto-Nr. 71 617, Ev. Darlehensgenossenschaft, BLZ 210 602 37.

アンメ牧師からの最後のお便り

恵美子様、健二様

年末年始のご挨拶をいただき有難うございました。  
私たち、多忙といくつかの病気のためにペンをとるこ  
とができず、今日にいたりました。2004 年もお二人に  
神の祝福がありますように、またバッハ合唱団にとり  
ましても良き 1 年でありますように。どうかこの 1 年  
お二人ともお元気で、多くのよいことを経験されます  
ように。

今年 9 月 23 日から 26 日までヴァイマルで、私たち  
の記念大会が開催されます。東アジア・ミッションは  
120 年前にヴァイマルの地で設立されたのです。ご参  
加いただけますか。9 月 26 日の記念礼拝のさいにバッ  
ハ合唱団が演奏することも可能だと思います。もちろ

ん合唱団の参加がなくとも、お二人だけでもいらっしやいませんか。再会の日を待ち望んでおります。

では、ごきげんよう。あなたがたお二人とバツ八合唱団の皆さまに、心から神の加護をお祈りします。私たちからお便りすることがあまりなくても、私たちはいつもお二人の上に思いを馳せています。

2004年1月19日

バーバラおよびグンドルフ

目白の練習場で、アンメ先生からのおたよりの大意を訳しながらご紹介したときには、「最後」の予想などこれっぽちもなかったのが、不覚にも軽く読み過ごしてしまったのですが、今読み返してみると、すでに「発信」があったのかもしれない、という思いにとらえられます。(森永毅彦)

## アンメ牧師との20年

大村恵美子

「合唱で“Gottes Zeit”を歌い出しますと、アンメ牧師は深くうなずいておられました。アルトのアリアでは、ご夫妻とも涙を流し、天を仰いでおられました。バスのアリオーゾ“im Paradies”では、アンメ牧師の表情がにっこりほほ笑んでおられました」(加藤剛男、月報460号、2000年11月)

このとき、春にご長男ヨハンネスを亡くされたあと、9月にドイツ東アジア・ミッション副代表として、バーバラ夫人とともに来日されました。これが私たちの、彼との最後の機会となりました。

その後も、お忙しいなかを、たびたびお手紙をくださり、2003年2月22日のお手紙に同封されたお二人のアイゼナハでのお写真が、記念すべき最後のものです [(月報491号、2003年5月)に掲載]



8月  
アイゼナハのバツ八像の前で再会(1997年  
第4回ドイツ演奏旅行の折、右の写真も)

ご紹介した最後のお手紙では、ご病気にもかかわらず、忙しく任務を果たしていらしたご様子が、よくわかります。

アンメ牧師は、20余年にわたって、私たち合唱団とすべてを共にしてくださった、心の支えでした。私が個人としてご自宅に招かれたのは、数えられないほどですが、合唱団全体としても、4回のドイツ演奏旅行、3回のアンメ牧師の来日(そのうち2回は夫人同伴)と相互に密接な往来がありました。ここに年表のみを掲げて、それぞれに深く先生を偲んでいただきたいと思います。

なお、来たる5月9日の定期演奏会、とくにモテット「恐るな われ なれと共にあり」BWV228は、アンメ牧師追悼のために捧げられます。

1981年7月 大村恵美子、松山与志雄氏の紹介でベルリンのアンメ牧師を訪ねる。

1983年8月 第1回ヨーロッパ演奏旅行。ハレ、マクデブルク、ライプツィヒ、ベルリン、シュトゥットガルト、ストラズブル、テゼで演奏。

1984年8月、9月 アンメ牧師初来日。信濃町教会で歓迎特別演奏会(9月14日)

1988年8月 第2回ドイツ演奏旅行。ベルリン、ライプツィヒ、アイゼナハ。

1993年8月 第3回ドイツ演奏旅行。ポツダム、ベルリン。

1994年4月、5月 アンメ牧師、夫人とともに来日、各地を団員と共に旅行。定期演奏会(第75回、5月7日)に来聴。

1997年8月 第4回ドイツ演奏旅行。ケルン、アイゼナハ、ライプツィヒ、ベルリン。



2000年9月 アンメ牧師、夫人とともに来日。世田谷中央教会で歓迎特別演奏会(9月9日)

ベルリン・ケベニックでのお別れ

モテット「恐るな われ なれと共にあり」

„Fürchte dich nicht, ich bin bei dir“ BWV228

東京バッハ合唱団副指揮者 橋本眞行

バッハのモテットは、毎週の礼拝のために作曲されたカンタータの作品数に比べて極めて少ないことから、また、モテットが当時においても少し古い形式と考えられ、新作物があまり求められていなかったことから、礼拝とは別の特別な機会のために作曲されたと考えられています。

この曲（BWV228）は歌詞の内容や独自の器楽部分を持たないつつましい編成などにより、葬式・追悼式のための作品であるとみられ、1726年にライプツィヒ市警備隊長の未亡人追悼説教のために作曲されたと推定されています。バッハがある書簡の中で、葬式での演奏で臨時収入が得られると記していますが、この曲については、あまり身分の高くないと思われる故人のために特別に作曲までしたということではなく、その機会に、過去に作曲していたヴェネツィア風複合唱の作品をベースに葬儀用の曲を用意したというのが真相ではないかと思われる。

歌詞は、神の救いに関する預言をテーマとする旧約「第2イザヤ」（イザヤ書第40～55章）の第41章10節、および第43章1節からとられ、またコラール「喜びの泉よ」は、パウル・ゲルハルトの「なにゆえにわれ悲嘆すべき」Warum sollt ich mich denn grämen（1653）の第11,12節が用いられています。

【歌詞】

<8声部二重合唱>

恐るな われ なれと共にあり  
安かれ われ なが主なり  
なんじをば 力づけん、われ なれを 支えん  
わが 正義の 右の 手もて（イザヤ41:10）

<合唱+コラール>

恐るな われ なんじを 贖(あがな)えり  
なんじを その 名もて 呼べり  
なれは わが もの（イザヤ43:1）

|               |                |
|---------------|----------------|
| 喜びの 泉よ        | われは なれを 抱(いだ)き |
| わが もの なれは     | 離れじ 光よ         |
| 一つ なり われら     | わが 胸より         |
| 主 われに 賜(たま)いぬ | 行(ゆ)かしめよ かなたに  |
| いのちを わがため     | とわの 愛もて        |
| なが 死によりて      | まみゆる 国に        |

<8声部二重合唱>

恐るな われ なが主なり（訳詞：大村恵美子）



野尻湖・神山教会演奏会で指揮をする筆者(2003年8月)

来たる5月9日の第95回定期演奏会では、筆者・橋本眞行氏にカンタータ2曲（第93番、第99番）の指揮をしていただきます。

すでに松山で25年にわたる実績をかさねられ、また当合唱団では、世田谷中央教会や野尻湖・神山教会の特別演奏会における指揮を受けもっていただいておりますが、今回が東京での本格デビューとなります。ひとりでも多くの皆様のご来場とお励ましをお願いいたします。

他のモテットが聖句とコラールを各楽曲に分けて文節的構成をとっているのに対して、このモテットだけは1楽曲のなかに上記の歌詞がすべて織り込まれていますが、形態からみて前半と後半との区別は明らかです。

前半はヴェネツィア風の二重合唱8声部の伝統的なモテット型ですが、後半は第1と第2コーラスが4声部にまとめられ、コラールをソプラノが受け持つ、いわばコラール幻想曲とも言い得るものになっています。また前後半各々が77小節ずつを持ってこの曲を正確に2等分しており、バッハが好んだシンメトリーの配列になっています。

モテットは、その語源が「言葉」を意味するフランス語 mot であるように、音楽の作りは歌詞を直接的に音形やリズムで表現する手法をとることが多く、この曲もいくつかのキーになる言葉からイメージされる表現を紡ぎながら出来上がっています。

冒頭で、第1と第2コーラスのバスが合同して、イ長調の主音をオルゲルプンクト（持続低音）のように歌い始める旋律の上に、他の声部がシンクペーションのリズムで柔らかく乗って歌われる様は、まさに神が大いなる愛をもって「恐るな」と呼びかけるにふさわしく、安心感に満ちたもので、その透明な響きが安らかな慰めを与えてくれます。さらに「力づけん 支えん」という言葉を表わすモティーフやメリスマを織り込みながら、我々を励まし続けます。

後半のテーマは「贖(あがない)」と神の愛に対する「信頼」です。われ汝をあがなえり と神が我々に呼びかけますが、その証としてすでにキリストの犠牲による「あがない」があるではないかとバッハは言うのです。痛み・苦しみを表わす半音階下降音型を持つ主題が、対旋律の上行音型を伴いながら、アルト・テノール・バスにより連綿と続けられますが(その半音階下降の主題は合計33回も繰り返される)、それは音型の上からも「キリストの受難」を示唆しているのです。

すでに我々はあがなわれている。この時に及んで何を恐れるか? もはや恐れる理由はない。我々は神の永遠の愛に対する確信をもってイエス・キリストのもとに身を預けるのである。

ここに至って初めてコラールを我がものとして晴れやかに歌うことができます。我々(=コラールの主語、ソプラノが歌う)は、主のあがない(下3声によるフーガ)により生かされる。われ汝をあがなえり という歌詞に対して、このような構図の音楽を書いたバッハの慧眼に感嘆するほかはありません。

橋本眞行：プロフィール

松山バッハ合唱団主宰・指揮。東京バッハ合唱団副指揮者。

愛媛大学合唱団指揮者を経て東京バッハ合唱団入団後、大村恵美子氏指導のもと、また小林道夫、H.リリング、若杉弘各氏の指揮のもとで研鑽を積む。その後も機会を得てH.ヴィンシャーマン、黒岩英臣、H.ドレンゲマン、P.ノイマン、H.M.ボイアーレ、故林達次各氏の指揮のもとでバッハ作品を中心に勉強をする。1978年に松山バッハ合唱団を組織し、今日に至る。2003年より東京バッハ合唱団の指導に参画している。

## 幻の花との再会

大村恵美子

誕生日を前にして、私は数十年ぶりに、久しく夢に描いていた花との再会を果たした。それは「ケマン(華鬘)草」または「鯛釣り草」という多年草のことだ。

はるかに遠い昔のことになるが、私の大好きだった吉祥寺の小学校の庭のかたすみ、花壇の、つつじかあじさいのこんもりした茂みの蔭で、目を見張るほど可憐な、小花の連なりが、朝露を帯びて光っていた。赤い小型のこまくさのような花の、とがった先が銀色でみずみずしい。そのとき私はひとりで、この驚きを分かち人が居合わせないのを、とても残念に思った。

それから何十年、一度もその花とは出会うこともなく、はたしてこの世にあったのかどうかも、定かではないような気になりながら、ときどき思い出していた。ところが昨年、たまたまテレビの山歩きのシーンで、ほんの一瞬、山路にそれらしき花が映るのを見かけた。つづいて、朝日新聞の「花おりおり」の欄で、「ケマン

ソウ」と紹介され、小さな写真が出た。もちろん、私の心のなかでは、精いっぱい美化されたものになっていて、これがほんとうに、あの時のと同一のものかどうか、疑わしい気持ちも残っている。とにかく実物に接したい。

そこで花屋にその切抜きを持ってゆくと、「春先に出まわりますから、お知らせします。最近わりあい人気が出てきています」と言われ、2月末に、入荷という電話がとどいた。白い花だったので、赤いのが入るまで待つことにし、ついに3月初めになって、鉢植えをわが家に迎え入れることができた。

まだほんの小さい蕾の一連が見えるだけで、4、5月ごろに咲きそろうとのことである。周囲の人たちに話すと、けっこう知っている人もあり、自宅の庭に毎年咲くという方もあった。

おびただしい数の植物や動物が地球上から加速度的に絶滅しつつあるこのときに、こんなに美しい花が、何十年もの長いあいだ、私に見出されるのを待っていてくれたことに、私は涙ぐましいほど大きな感動をおぼえる。そして、長い人生を生きる幸せを、こんなときにしみじみ味わうのである。長生きには、よいことばかりがあるように思われてくる。皆さん、生き急がないでください、と呼びかけたくなる。



バッハ・カンタータ 50 曲選  
出版ニュース No.16

CD選集「日本語演奏によるバッハ・カンタータ 50 曲選」第2期(第1巻,3巻,4巻,7巻)は、3月20日発行となりました。ご予約いただいた方々には、順次お届けしています。

今回発行のうち、第1巻にはBWV1,4,6の3曲が収録されていますが、とくにバッハ初期作品のBWV4(1983年録音)、円熟期作品のBWV6(1987年録音)は、いずれも合唱の清澄な響きが圧巻です。

またBWV1,26,30,47の計4曲は、昨年5月の定演会場録音です。第3巻所収のBWV21は青年バッハ渾身の大作であり、第7巻所収のBWV56は、バスのソロ・カンタータとして名作中の名作(渡邊明氏演奏)。

CD、内容紹介パンフ、いずれも事務局までお申込みください。